



目次：生涯学習センターESD研修/東条小学校教員研修/信州大学教育学部ASPUnevNetに加盟/お知らせ

6月6日 長野県生涯学習推進センター主催の研修としてESD講義がおこなわれました

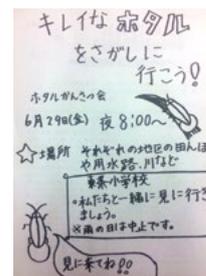


長野県総合教育センターにおいて、長野県生涯学習推進センター主催の地域づくり研修として「持続可能な社会づくりに向けた教育の新しい在り方」というテーマで講義が行なわれました。小・中・高・特支の教員をはじめ、公民館職員やNPO職員、地域おこし協力隊員、地域住民等、約40名が集いました。まず、湊川短期大学学長の末本誠先生によるESDに関するご講義があり、その後、長野県内の事例紹介として信州ESDコンソーシアムの取り組みを中心に、県内のユネスコスクールの活動やコンソーシアムを通じて繋がり広がった活動例について紹介しました。ESDやユネスコスクールという言葉は初めて聞いたという人も多く、ESDについて県内に広める良い機会となりました。(安達仁美)

6月29日 長野市立東条小学校でESD教員研修が行われました

ユネスコスクールをめざしている東条小学校で教員14名が参加しESD研修がおこなわれました。渡辺がPPで「Think Globally, Act Locally」と題して講演し、教員対象なので、①日々の教育が世界に繋がっていること、②将来社会をみすえてESDが行われること、③地域と協力して進めること、の3点を強調し、質疑応答した。家庭科での取り組みがESDに繋がっていることが理解できたなどの感想があった。

当日夜には、当校の教育活動である「ホタル学習」の一つである“ホタル観察会”が開催された。毎年、各地区毎に子どもたちが集まり、保護者とともにやっているが、今年も地域にも呼びかけ地域の方も一緒にホタルの観察を行った。学校周辺の水路や河川で所々に光るホタルを「あっ、いた、いた」など声を上げて観察した。多くの地域の方々の参加で地域の豊かな自然を確認する良い機会になった。教員は繁殖用のホタルを採集し、水槽で産卵させ、児童の幼虫飼育に提供するという。信州ESDコンソーシアムとの連携によるユネスコスクールへの歩みが東条小学校でスタートしました。(渡辺隆一)



7月1日 信州大学教育学部がASPUnevNetに加盟を承認されました

各地のユネスコスクール申請の支援やその評価などをおこなっているUnivNet(ユニブネット)には現在20大学が参加しており、本年、信州大学教育学部も加盟申請し、この度承認されました。現在、県内では2つの学校がユネスコスクール申請のチャレンジ期間中であり、これからも増加するユネスコスクールの申請支援を今後は信州大学教育学部がコンソーシアムメンバーの協力も得ながら担うこととなります。県内においてはますます信州ESDコンソーシアムの果たす役割が重要になってきます。



お知らせ

長野県は平成30年度「信州環境カレッジ」講座の募集を始めました。信州環境カレッジには地域講座と学校講座があり、それぞれ「地域講座を通じて環境に関する県民の「学び」を拡大し、豊かな自然環境の保全や持続可能な社会を支える人づくりを進めます」、「学校講座を通じて学校における環境教育を推進し、環境についての理解を深めるとともに、主体的に考え行動する人材を育成します」を目的としています。個人、NPO又は任意団体が開催する講座であることが条件で講座を申請すると「信州環境カレッジ」のホームページに講座情報が掲載され、審査によって補助を受けることもできます。幅広い環境教育的活動への補助事業であり、多くの講座の登録と申請を募集しています。詳細は県の信州環境カレッジHPで。

